

講義年月日	2003年1月8日 (水)
講演者	加藤 好郎氏 (慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
テーマ	私立大学図書館の現状と課題
講義内容	<p>1.メディアセンター設立の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1990年 湘南藤沢キャンパスオープン～卒業生の質と量の時代へ ・1993年 4地区メディアセンター設立 図書館と計算センターのドッキング 安易な組織統合 現場の混乱 <p>2.リエンジニアリングと集中処理機構の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1995年 メディアセンター内にNTC (ネットワーク・テクノロジー・センター) 設置 ・1995年 三田メディアセンターテクニカル・サービスのリエンジニアリング ～基本コンセプトはパブリック・サービスの充実 7万冊の整理滞貨、カタログの意識改革、トヨタのカンバン方式、レファレンス担当の増員、相互貸借担当の独立、マルチメディアサービス、書庫管理担当設置 ・1998年 ITC (インフォメーション・テクノロジー・センター)との別離 ・1998年 集中処理機構の設置～テクニカル・サービスの5地区の統合 <p>3.大学図書館が現在抱えている問題</p> <p>も:書庫の狭隘化 研究機関の不足 著作権問題 書誌データ整備 ひと人材、人手不足 図書館員の突然の人事異動 専門職としての図書館員の確保 かね:予算の伸び悩み、削減 (図書館に必要な経費 大学全体の経常経費の3～5%) 洋雑誌の誌代高騰 リソースシェアリング、SPARC、電子図書館立ち上げの設備投資</p> <p>4.三田メディアセンターの7つの戦略</p> <p>Cooperative Service 相互貸借 分担収集 DDS (ドキュメントデリバリー・サービス)・RLG加盟</p> <p>Space Issues 保存図書館 オンキャンパス:人文社会科学 オンフット:社会科学とSTM (科学、技術、医学) アウトオブ キャンパス STM ・新棟建設(Law School)～研究図書館と学習図書館機能の見直し</p> <p>Collection Development 選書基準見直し 蔵書構築検討委員会設置 電子ジャーナルに対する補助金(私情協)とコンソーシアムによる価格交渉グループの立ち上げ</p> <p>Bibliographic Data ・「学術情報の流通基盤の充実について」 図書館が情報収集と発信も ・メタデータ (RLGのMETS (Metadata Encoding and Transmission Standard) のノウハウ)</p> <p>Electronic Library ・DRM (デジタル・リサーチ・ミュージアム)の改組 ・収入を上げられる図書館 (RLGのCMI (Cultural Material Initiative) のノウハウ)</p> <p>Research and Development Z39.50 文字コード MARC21等MARC統一 RLGのILL Manager</p> <p>Training for Professional Librarian 専門職としての図書館員の育成、養成</p> <p>5.最後に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとつの大学図書館では、最早何も出来ない時代 日本のRLG、ARL立ち上げ ・ICOLC (International Coalition of Library Consortia) 電子ジャーナルや各種データベース購入のための価格交渉および契約形態のためのコンソーシアム構築 日本版JCOLC ・日本においては、情報収集・発信機能はNII 各大学ではその機能は図書館で教育支援と研究支援も(大学図書館の生き残りに不可欠)
感想	新しく対応しなければならないサービスを実現するために、自館で従来の仕事をいかに効率化 縮小化するか、更に館を超えてコンソーシアムが必要であるというお話であった。
配付物	私立大学の図書館経営戦略 問題解決への具体的な取組み」